

(2008年)

時差ぼけの中で——イタリアに憑かれた四〇年——

15回 青柳 正規

十数時間ほどまえに一週間のヨーロッパ出張からもどったところです。留守をさせたことで少々すねているピツピを長めの散歩にまぜ連れだしました。散歩で気がついたのは、ローマやパリにくらべても今年の東京はかなり冷えこんでいるということです。そこで、みかんの皮をひたした風呂にゆつくりとつかり、伏見の酒とコート・ドールの葡萄酒で二時間ほどの食事をとって床につきました。眠るための十分な助走をしたはずでしたが時差ぼけのせいや寝つけず、締め切りが近づきつつあるこの原稿を書いているところです。アメリカの東海岸に行くとき、あるいはヨーロッパから帰るとき、つまり、地球の自転と逆行する飛行機に長時間乗ったあとのジェット・ラグ症候群が歳とともに解消されにくくなってきたようです。

私をはじめてヨーロッパに渡ったのはいまから四〇年ほど前の二四歳のとき、ボンベイ壁面を勉強するためです。当時海外留学をす

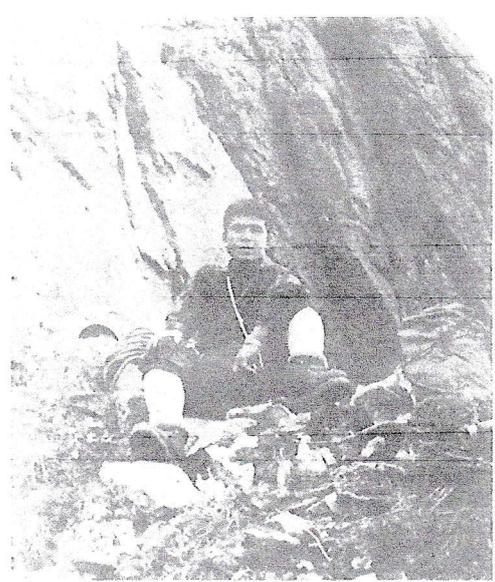
るには留学先政府の奨学金をもらう必要がありました。というのもその頃の日本は外貨不足だったため外貨持ち出しに制限があり、海外支店をもつ商社などにツテのあるような場合だけしか私費留学はできなかつたからです。

私の場合はイタリア政府奨学金をもらいローマ大学文学部に留学しましたが、奨学金は微々たる額でした。このため映画を見たときは夕食をぬく、かなりの距離でもバスには乗らないといった典型的な貧乏留学生でした。それでもギリシア・ローマ時代の遺跡を見て回らねばならないのでミュンヘンまで行って中古のフォクスワーゲンを手に入れ、同市郊外にあるリンホフの工場で大型カメラを購入したりしました。いま思うと食費を削るほどの無理をしましたが、まえに進むことしか考えない若さがあつたからとなつたかしく想い出されます。

研究者のおおくがそうであるように、留学

時代がもつとも集中して勉強をすることができました。とくにギリシア・ローマの美術を専門とする研究室がなかつた日本からの留学生にとって、ローマ大学だけでも一〇〇人ばかりの学生がおり、専門研究者も常勤非常勤あわせるなら二〇人近くがそろっている研究室は楽園のような場所でした。その一方で、ギリシア語、ラテン語だけでなく専門知識に関してもこちらの蓄積があまりに小さいことを認識せざるをえませんでした。かれらと肩をならべるところまでいけるのかどうか不安で、精神的におちつかない数ヶ月が瞬く間にすぎていきました。基礎的な勉強から本格的な研究へと進むことができたのはそのような不安がバネとして作用したのかもしれませんが。

新宿高校での生活をなんとなく思い出したのはそのころのことです。冒険とはいえませんが、なにか非日常的な時間を模索したいと



穂高の岩壁にて

いう気持ちから、私は高校一年のときから山岳部に入っていました。丹沢や三つ峠のような近郊の低山に毎月でかけ、夏冬の休みに一週間ほどの合宿に参加しました。三浦さん、船津さん、奈良井さん、杉山さん、西池さんたちが同学年の部員でした。高校生活の中核に山岳部の活動があり、夏の大会前後だけ硬式野球部の練習と試合にも参加していました。また、たしか二年生のときにできたラグビー同好会にもときどき顔を出しました。松原高校での雨の中の泥だらけになっての試合はいまでもなつかしく思い出すことができます。ともかくなによりも身体を動かすことが最大の関心事でしたから、薄暗くなるまで登山、野球、ラグビーいずれかの練習に参加し、「美華登」で湯麵を食べて帰るといのが日常のパターンでした。運動中心の生活です。成績は低空飛行でした。ただ勉強にかけた時間の割にはまあまああの成績をとっていたので、わずかの時間で大きな効果を出すという要領のよさはかなりのものだったようです。雑用が一切なく、パチンコのような気をまぎらわす手段もない留学生活の時間をどのような配分で効果的に用いるかを考える際、高校時代の経験が自信と参考になったようです。

しかし、高校時代から留学までがすべて円滑に推移したわけではありません。その過程にはいくつもの挫折や屈折がありました。た

とえば、のちに中日ドラゴンズに入団することになる井出さんは野球部の一年先輩で、三遊間と一緒に守ったこともありました。身体が柔らかく瞬発力もありバランスのとれた体格の持ち主でした。井出さんは浪人をしたので東大入学は同期になり、もしかすると一緒に神宮球場で野球ができるかもしれないと考えたこともありました。しかし、大学の野球部から勧誘があったのは井出さんだけで、私にはなんの誘いもなかったため山岳部に入ることにしました。野球に対する自尊心が傷ついたことはいまでもありません。ただし、それから三年後だったと思いますが、東大運動会（体育会に相当する組織）主催のスキー講習会でコーチをしていたとき、私のクラスにたまたま井出さんが入ってきました。中学の終わりごろからスキーをやっていたので、このときばかりは優越感をもって指導することができましたが、一年後には完全に抜かれてしまいました。やはりプロ野球選手になるほどの運動神経をもっている人は違うもののだ

とつくづく納得した次第です。

留学から帰ったあとも、ボンペイ、シチリア、タルクイニア、そして現在継続中のソーマ・ヴェスヴィアーナでローマ時代の遺跡や遺構を発掘調査するためしばしばイタリアに渡っています。十年ほど前までは毎年六月末から十月末までの約四ヶ月間、発掘調査にたずさわっていましたので、うちの奥さんからは母子家庭のようだとよくいわれました。ただし、調査研究費も少なかったため、年一回の渡航を可能な限り長期としたので時差ぼけにかかることはありませんでした。それが最近では年間十回程度往復しており、一回の滞在はせいぜい十日、ひどいときには一泊しかないときもあります。そんな短い期間でのヨーロッパとの往復がジェット・ラグ症候群をひどくしているのかもしれませんが、そのおかげでどうにかこの原稿を書き終えましたので、今度は催眠効果のあるビールを飲んで寝ることにします。